

東日本大震災後の復興感に及ぼす要因の研究

－石巻市・岩沼市・名取市－

水 田 恵 三*

Study on factors affecting recovery after the Great East Japan Earthquake
Ishinomaki City · Iwanuma City · Natori City

Keizo Mizuta

東日本大震災後の復興感に関して、名取市、岩沼市、石巻市の仮設住宅、復興公営住宅、その他の地域住民を対象として震災後5年半を経過した時点で、476名に対してアンケート調査を行った。健康状態は、地域ごとでは岩沼市の健康状態が他地域に比べてよかった。住居形態ごとでは、名取市と岩沼市の復興住宅が高くなっており、住居として復興住宅に落ちついたことが健康状態に良い影響を及ぼしている。市民と行政との関係については、岩沼市は行政依存度が少なく、集団で物事を決める傾向が強い。一方、名取市は集団で物事を決める傾向が他所よりも低いという結果が示されている。地域への帰属感は岩沼市、石巻市、名取市の順で高くなっている。それぞれの地域における結びつきの強さでは石巻市と名取市は弱いと感じており、岩沼市は強いと感じている人が多い。復興感に与える要因としては、現在の生活への満足感と現在の地域への住み心地のよさが大きいという結果が示された。

キーワード 東日本大震災 復興感 地域

(目的)

宮城県(2015)によれば、2011年に生じた東日本大震災において石巻市は震災前の人口が160394人、震災によって死者3270人、岩沼市は震災前の人口が44260人、震災による死者が180人、名取市は震災前の人口が73603人、震災による死者が911人であった。震災後石巻市は最大避難者数が50758人、応急仮設住宅は131団地、岩沼市は最大避難者数が6825人、応急団地数が3、名取市は最大避難者数が11233人、応急仮設住宅は8団地であった。ここから見ても、石巻市、名取市の被害は大きく、岩沼市は相対的には少ないことが分かる。しかし、被害規模の差以上に岩沼市の復興は早く、石巻市、名取市の復興は遅かったというイメージがある(内田 2019)。この差はどこから生じたのであろうか。震災復興感における住まい再建のスピードの占める割合は大きく、岩沼市の集団移転は2015年と他所に比べて早かった。しかし、内田(2019)も記述しているように、その集団移転にいたる住民の合意形成の方法や復興全体への行政への取り組みが、大きく影響している。ここでは、三都市の復興感をアンケート調査に

2019年12月20日受理

* 尚絅学院大学 教授

よって比較し、復興感が異なる場合にはそれがどのような要因によって生じたのかを調査することとした。なぜこの3地区であるのかは、まず名取市は本学が位置する市であること、岩沼市は名取市と比較されることが多く、同じ湾岸部が被災していること、石巻市は、名取市同様被害の規模が大きかった理由による。

田村たち（2001）によれば、生活復興の要素は7つある（図1）。その中で、住まいは最も重要な要素であるが全てではない。

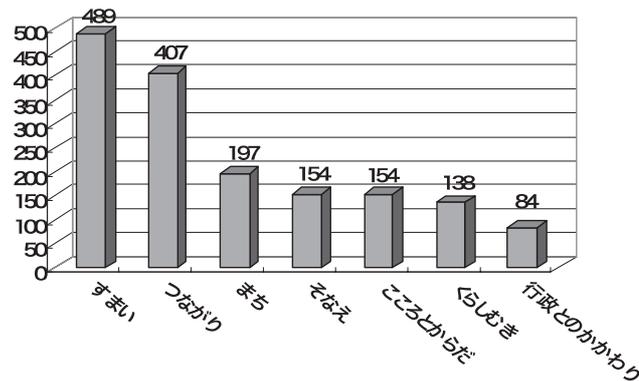


図1 生活再建7要素別カード枚数¹⁾

1) 田村たち（2001）復興の教科書から引用

人々のつながりや町そのものの復興なども復興の重要な要素である。本調査の問題意識は行政の復興計画やその進捗度、個々人の心理状況や健康状態や周囲の状況が個人のレジリエンスと集団のレジリエンスを媒介としていかに復興感に影響を与えるのかというものである。

なお、名取市と岩沼市の復興過程において、自治体への評価は、名取市が満足している、少し満足しているが2割強であるのに対して、岩沼市では4割を超えており、後者の自治体への信頼感が高くなっている（内田 2019）。これは、もともとそのような関係であるのか、それとも復興過程を通じてそうなったものであるのかなどを考察していきたい。

注1) 田村・林・立木・木村 2001 阪神・淡路大震災からの生活再建7要素モデルの検証 京大防災研復興調査報告

(方法)

調査は2016年8月末から9月にかけて、名取市仮設住宅、借り上げ仮設住宅、復興公営住宅、復興住宅、岩沼市復興住宅、復興公営住宅、石巻市災害住宅、災害復興住宅、借り上げ、自力再建住宅などに調査用紙を個別に配布（一部は郵便受け）し回答を得た。全体で1100部配布し、有効回答は476通 回収率は43.3%である。震災後5年半が経過しているこの時期は、ある地区では仮設住宅から復興公営住宅への移転がすべて完了しており、一方では、仮設住宅に残っている住民が多数存在する地区など、住宅を中心とする復興に対する感覚の温度差が著しいときであった。

(結果)

有効回答 476 の内訳

性別では男性が 146 名、女性が 294 名 不明が 16 名である。

1. 年代別では

表1 年代別人数

20 歳代	5	1.1%
30 歳代	21	4.4%
40 歳代	36	7.6%
50 歳代	59	12.4%
60 歳代	158	33.2%
70 歳代	108	22.7%
80 歳以上	51	10.7%
合計	438	100%

無記入 38 を除く

回答者のうち 60 歳代以上が半数以上を占めている。

2. 現在の住居に関しては

名取市が 131 岩沼市が 124 石巻市が 194 となっている。これは厳密には 100%とは言えないが、その地で被災し、その地に戻った方である。

3. 現在の住居形態

表2 住居形態

仮設住宅	143	31.7%
借り上げ 無償	17	3.7%
民間賃貸	25	5.6%
実家など	1	0.2%
自己所有	151	33.6%
災害復興住宅	112	24.9%
その他	1	0.2%
合計	450	

不明 26

自己所有の中には自宅再建のほか移転した災害住宅への入居も含まれる

4. 現在の人数

現在住んでいる人数は、1 人が 116 名で 24.4%、2 人が 164 人で 34.5%と最も多い。3 人が 66 人で 13.9%、4 人が 48 人で 10.1%、5 人が 23 人で 4.8%、6 人以上が 7 人 4.3%で、3 人以内の家庭が 7 割を占める。以前の 3 世代の家庭から単身や二人以上の家庭になっているケースが多いと思われる。

5. 健康状態

表3 健康状態

非常に悪い	16	4%
悪い	74	16%
どちらとも言えない	184	41%
よい	165	36%
非常によい	14	3%

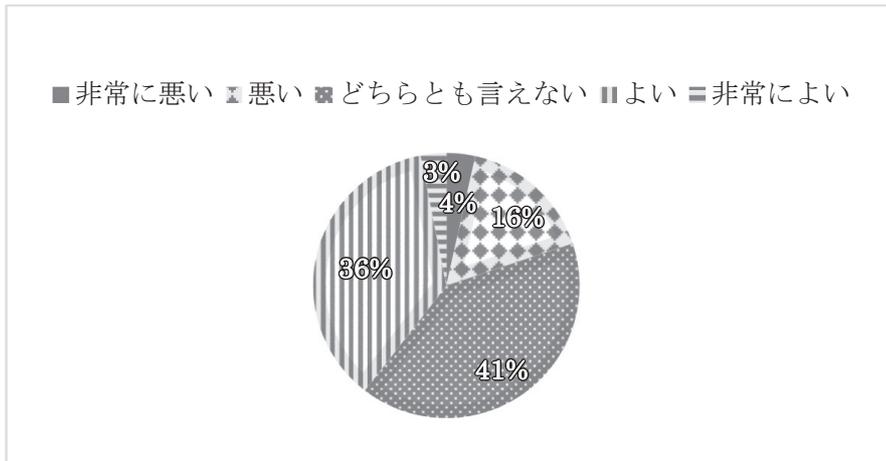


図2 健康状態

全体的に悪いというのは 20%以下と少なくなっている。

健康状態を得点化した地域ごとの平均では名取市が3.14、岩沼市が3.32、石巻市が3.15と岩沼市の健康状態が、他地域に比べて高くなっている。

地域、住居形態ごとの健康状態の比較では図2のようになっている。

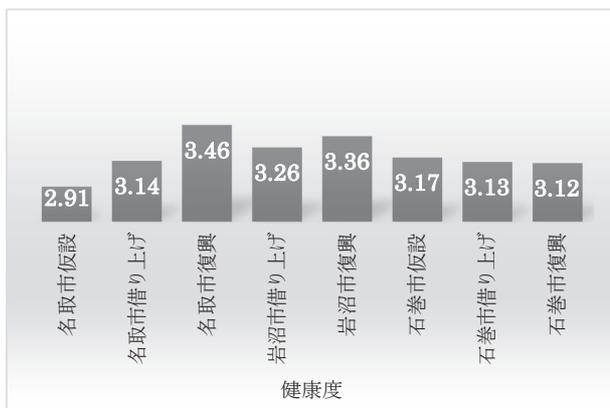


図3 各地域、住居形態別の健康度比較

名取市の復興住宅と岩沼市の復興住宅の住民の健康度が高くなっている。これは、住む場所が安定したことにもよる。特に名取市では同じ市内でも仮設と復興住宅の差は顕著である。

6. 次に周囲にサポートしてくれる人がいるか（1 いない 2 いる）をその時点で尋ねている。

3市では 平均に差がなかった。1 と 2 を得点化した結果、仮設住宅と復興住宅では1.68であるのに対して、借り上げ住宅とは1.75とやや高くなっている。これは、借り上げ住宅の居住者のソーシャルサポートの高さを示している。

7. 市民と行政との関係について

例えば

①ゴミ出しのルールについて

1. 行政がもっと指導して欲しい
2. ルールを守るか否かは、各自の自覚にまかせるべきだ
3. ルールが守られるように、当番を決めて立会人をおくべきだ

という設問で、1は行政依存を示しており、2は個人の努力、3は集団で解決を進める傾向を示している。

3市ごとの合計（人）は 表のとおりであり、それぞれ割合は図4となる。

表4 3市ごとの合計人数

	行政依存	自力	集団
名取市	88 (23.4%)	161 (43%)	126 (33.6%)
岩沼市	46 (12.3%)	167 (44.8%)	159 (42.7%)
石巻市	135 (25.7%)	222 (42.2%)	208 (39.6%)

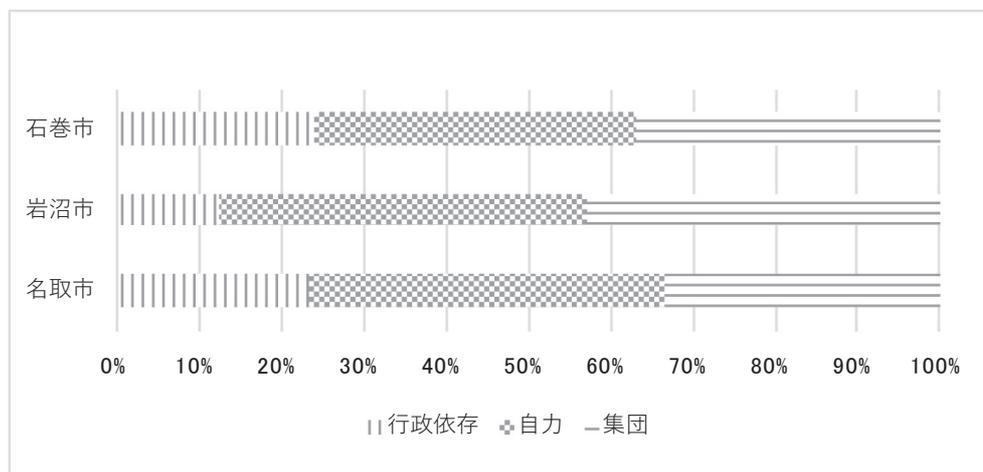


図4 3市 市民と行政との関係

岩沼市は行政依存傾向が少なく、集団で物事を決める傾向が高い。名取市は集団で物事を決める傾向が他地域よりも低い。

8. 現在の生活等への満足では
 大変不満であるを1とし 大変満足を4とした結果
 市、住居形態ごとの集計を示すと図5になる。

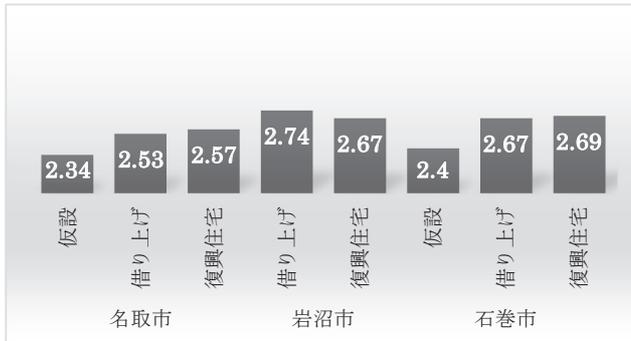


図5 市、住居形態ごとの比較

もっとも高いのが岩沼市借り上げ、石巻市の借り上げ、復興住宅も高い。ただし、岩沼市の借り上げは数が少ないので、データとしては参考にならない。

9. 現在の地域への感じ方、得点が高くなるほど地域への良いイメージになっている。その結果に関しては図6に示している。

例えば

この地域に帰ってほっとするという項目に対して

1 そう思う から 4 そう思わない で 得点は逆にして集計

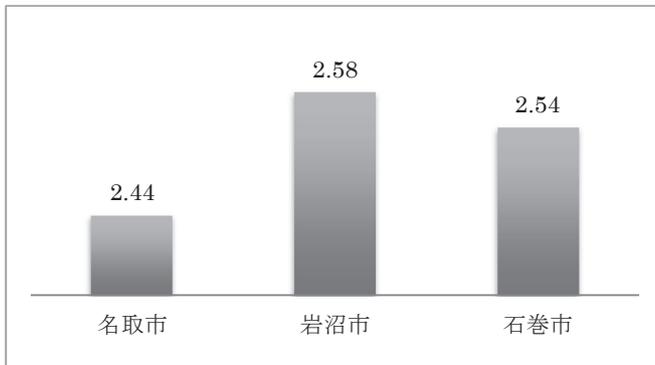


図6 3市における地域へのイメージ

岩沼市、石巻市、名取市の順に高くなっている。

10. 地域への帰属感や地域における相互間の結びつきの強さを聞いている。

例えば

- 1 地域との付き合いがあまりなく、それぞれで生活している
- 4 地域との付き合いはかなりあり、何かの時には多くの人に参加する

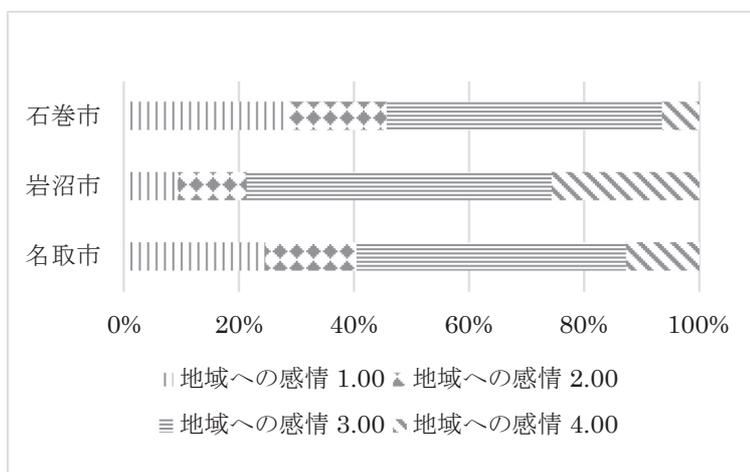


図7 3市の地域への帰属感

石巻市と名取市は地域における相互間の結びつきが低いと感じている人が多く、岩沼市は高いと感じている人が多い。

11. 地域の住み心地を3市ごとに示したのが図8である。

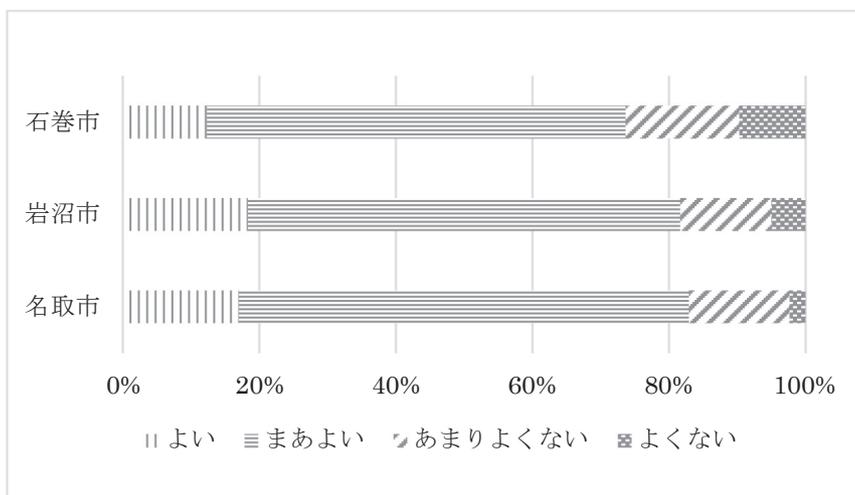


図8 3市ごとの地域への住み心地

岩沼市と名取市は住み心地がよいと感じている人が多く、石巻市は住み心地が良くないと感じている人が他域に比べて多い。

12. 地域ごと、3市ごと、住居形態ごとの復興の様子

これは 1 全然復興していない から 5 全く復興した を5段階で尋ねた。1 から 5 に得点化して地域ごとの復興の様子が図9に示される

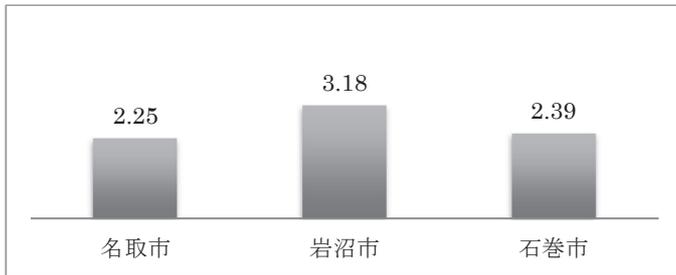


図9 3市ごとの復興の様子

岩沼市の復興感の高さが際立っている。

住居ごとの復興感の高さは図11に示される

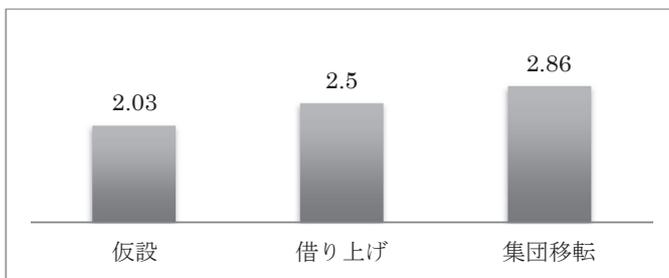


図10 住居形態ごとの復興感の様子

集団移転、借り上げ、仮設住宅の順で高くなっている。

次に 地域と住居形態ごとの復興感を図11に示す

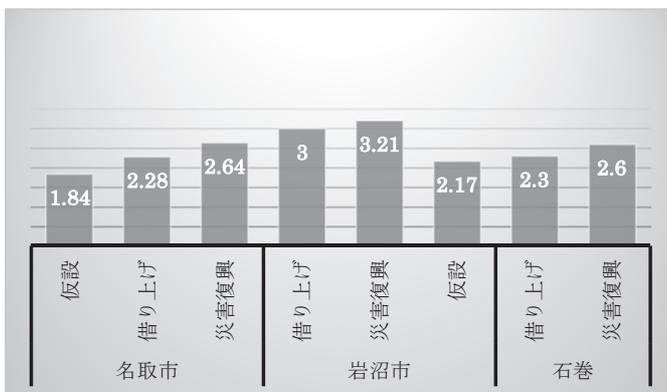


図11 地域、住居形態ごとの復興感

岩沼市の復興感が高い。その中でも災害復興住宅居住者の復興感が高い。

13. 復興感に影響を与える要因

復興感に影響を与えると思われる要因を現在の生活への満足感、地域への帰属感、地域への住み心地のよさと考え、偏相関係数を求めたのが表5であり、それを図示したのが図12である。

復興感を従属変数とし、生活への満足感、一年後の予想（逆転）、地域の効力感（逆転）、地域の様子を独立変数として強制投入法による重回帰分析を行った

R=0.400

回帰式全体の有意性の検定

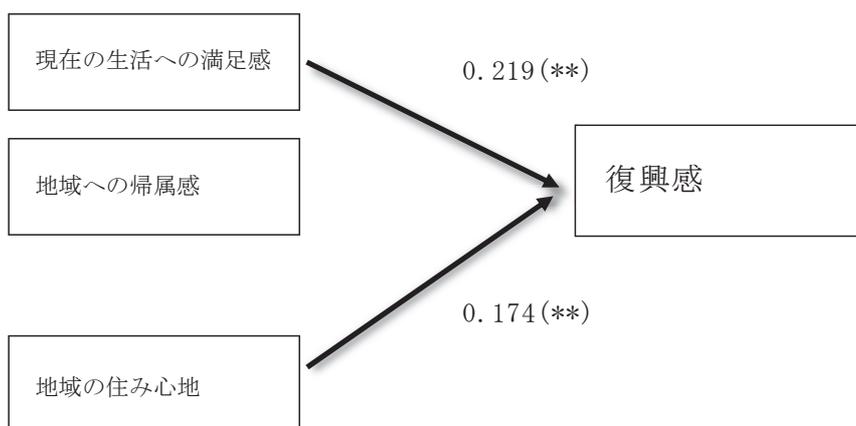
0.1%水準で有意である

VIF（共変性指数）はすべて10以下

表5 標準化係数

満足感	0.219 **
地域への帰属感	0.0071
地域の住み心地	0.174 **

** t値 p<0.01



** : p<0.01

図12 復興感に影響を及ぼす要因

復興感に影響を及ぼすのは、現在の生活への満足感や現在の地域への住み心地のよさである。

(考察)

東日本大震災後の復興感に関して、名取市、岩沼市、石巻市の仮設住宅、復興公営住宅、その他の地域住民を対象として震災後5年半を経過した時点で、476名に対してアンケート調査を行った。回答者は女性が3分の2を占め、60歳代以上も半数を占めていた。

主な結果を示すと健康状態は、3地区合計でよい、非常によいが57%と半数以上である。地域ごとでは岩沼市の健康状態が他地域に比べてよかった。住居形態ごとでは、名取市と岩沼

市の復興住宅が高くなっており、住居として復興住宅に落ちついたことが健康状態に良い影響を及ぼしている。市民と行政との関係については、岩沼市は行政依存度が小さく、集団で物事を決める傾向が強い。一方、名取市は集団で物事を決める傾向が他所よりも低いという結果が示されている。現在の生活に満足しているかでは、岩沼市、石巻市の復興住宅が高かった。一方名取市の復興住宅住民は他所に比べると高くはなかった。一方名取市、石巻市の仮設住宅入居者は満足度は低かった。地域への帰属感は岩沼市、石巻市、名取市の順で高くなっている。それぞれの地域における結びつきの強さでは、石巻市と名取市は弱いと感じており、岩沼市は強いと感じている人が多い。地域の住み心地に関しては、名取市と岩沼市はよいと感じている一方で、石巻市はよくないと感じている人が多い。地域ごとの復興の様子では、岩沼市、石巻市、名取市の順で高くなっている。住居形態ごとの復興では、集団移転が高くなっている。地域、住居ごとの復興感では岩沼市の災害公営住宅が最も高く、石巻市、名取市の災害復興住宅も高くなっており、住居形態が復興感に及ぼす影響は大きい。

復興感に与える要因としては、もともとあった地域への帰属感ではなく、現在の生活への満足感と現在の地域への住み心地のよさが大きいという結果が示された。

以上の結果から考察すると、復興住宅への入居者の健康状態が良く、満足度も高いことから、住居の復興が復興感に与える影響は大きいという従来どおりの結果が示された。一方、復興の過程で地域差も生じており、岩沼市は地域への帰属感が強く、さらに行政依存度が低く、集団で物事も決める傾向が高いため、復興のスピードも速くなったと考えられる。一方、復興感に関しては、地域への帰属感が強いほど、復興感が高いと予想したが、結果は、現在の生活に満足しているか、その地域への住み心地のよさが影響しているということが分かり、現実的な感覚で捉えていることが分かった。

名取市や石巻市の地域への帰属感の低さは、もともとであるのか、復興の過程であるのかは不明である。また、内田（2019）が述べるような名取市民の行政への不満の高さは、復興過程における行政そのものの落ち度があるのかもしれないが、名取市民の行政への依存度の高さと、集団で物事を進める傾向が低いことによるのであろう。

文献

- 宮城県 2015 東日本大震災 宮城県の発災後1年間の災害対応の記録とその検証
内田龍史 2019 宮城県名取市・岩沼市における住環境の復興過程 吉野・加藤編 震災復興と展望 持続可能な地域社会をめざして 有斐閣 pp157-178